令和6年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
402	川崎市立幸高等学校	百瀬　実

学 校 教 育 目 標	学校経営の重点項目	今年度の重点目標
1 広く豊かな心と教養を持ち、自主的精神と態度を身につけた誠実清楚な人間を育成する。 2 礼儀と秩序を尊重し、責任感と協調性を持ち、社会の変化に対応 できる力を育成する。 3 確かな学力を身につけ、専門的かつ国際的な視野を持ち、自己の可能性を追求する力を育成する。	◎豊かな心の育成 ◎確かな学力の向上 ◎魅力ある学校づくり ◎安心・安全な学校づくり	○望ましい人間関係の育成 ○主体的・協働的な学習の充実 ○探究活動等を通じた家庭や地域との連携・協働 ○防災マニュアルに基づいた防災教育の充実

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	◎豊かな心の育成 ○望ましい人間関係の育成	・いじめ根絶に向けた継続的な指導の実施 ・共生/教育プログラムによる人間関係の構築 ・挨拶、身だしなみ、時間を守る等の自己管理能力の育成 ・SNS等のトラブル未然防止に向けたコミュニケーション能力の向上 ・特別な配慮を必要とする生徒への対応	【成果】 ・「学校生活アンケート」を2回（5月/10月）実施し、生徒の学校生活状況の把握に努めた。生徒情報を迅速に共有しフィードバックできる環境を整えて、いじめ根絶に向けての指導を継続している。 ・行動予定を生徒各々が管理し、基本的生活習慣を確立させる取り組みを進めている。教員から積極的に挨拶をすることにより、きちんと挨拶ができる生徒が増えつつある。 ・保健室やカウンセリングルームを活用し、生徒が悩みごとを相談できる環境づくりを進めることができた。必要に応じてケース会議を開催し、善後策の構築を図った。 【課題】 ・学校での過ごし方を再認識して、思いやりを持った言動をするように日頃から心がけるよう継続的に指導していく必要がある。SNSの使用については、インターネット講演会などを通じて使用に関する生徒の意識改革を図らなければならない。	・生徒の社会性やコミュニケーション力の向上を図るため、体育祭や文化祭等の校内における自治的活動への参加はもとより、社会見学や地域活動にも積極的な参加を促していく。 ・インターネット講演会を実施した後、事後アンケートを確認してSNS等が適切に利用されているか否かを把握する。 ・生活手帳の活用による自己管理の徹底と、管理能力の向上を生徒に促す。大切な事柄はメモをする習慣づけを奨励し、進路活動に役立てていく。 ・外部人材を活用した講演会やワークショップの実施。実施後の振り返りと生徒へのフィードバックによる意識改革の促進。
2	◎確かな学力の向上 ○主体的・協働的な学習の充実	・家庭学習の定着に向けた自発的な学習の推進 ・学習評価を通じた学習指導の改善 ・「表現力/発信力育成プログラム」の作成 ・学びに向かう力を育成するための授業の推進 ・校内OJTによる授業力向上の研修/実践 ・タブレットを活用した授業実践の共有	【成果】 ・生徒各々が所有するタブレット端末へ学習資料を送信したり学習課題を配信したりして、個別最適な学びを推進することができている。生徒の基礎学力の定着/向上の一助となった。 ・スタディサポートや模擬試験を実施し、学びに向かう力の育成に取り組むことができた。結果を生徒の今後の目標につなげる指導が必要となっている。 ・10月に校内OJT研修を実施し、教員相互の情報共有と指導力向上のための機会とした。「GIGA端末の効果的な活用」と「生徒の主体的な学習・活動を引き出す授業の工夫」を研修テーマとし、実践事例研究を行うことができた。 【課題】 ・タブレット端末を用いた授業実践はあるが、更なる有効活用の仕方を探る必要があると教員が強く持っている。 ・生徒家庭学習の定着に向けた、具体的な手立てが不足していると感じている教員が多いようである。	・新学習指導要領に基づいた学習指導の在り方と、指導と評価の一体化について更なる研修と研鑽を深めて共通理解を図る。 ・特別講師の解説による授業支援ソフトの活用事例報告や活用方法の研修を開催する。 ・「家庭学習の定着に向けた自発的な学習」を推進するための条件として、何が必要で、どのような手立てが有効であるのかを検証する。

3	◎魅力ある学校づくり 〇探究活動等を通じた家庭や地域との連携・協働	・商業教育の活性化に向けた研究の推進 ・インターンシップの実践 ・普通科における生徒の進路実現に向けた取組の推進 ・自己の在り方生き方を踏まえたキャリア教育の推進 ・幸探究（グローカル探究）の発展的継続と課題研究の充実化/豊富化に向けた取組 ・全教員による「リサーチ基礎」への取組と共通理解	【成果】 ・「商品開発と流通」の授業実践で、生徒が企画立案した「梨ゼリー」や「幸煎餅」、「ご当地キーホルダー」といったものが商品化され、市場に供給されることが実現した。 ・45の事業所に協力してもらい、112名の生徒（ビジネス教養科1年生）がインターンシップに臨むことができた。社会における経験値を上げ、生徒自らのキャリアプランに生かすことができている。 ・「生きる力の創造講演会」を実施し、自己の在り方/生き方を考える機会とした。 ・幸区役所と連携している地域探究学習が軌道に乗りつつある。御幸公園における観梅会では、生徒たちが考案したイベントを実演することができた。 ・1月に幸ホールに於いて、探究学習成果発表会と課題研究の授業実践発表会を開催し、今年度の取り組みを生徒が発表し、優秀な事例を全校生徒で情報共有することができた。また、市制100周年シンポジウムに用いるプレゼンテーションも同時に行われ、生徒の発表を供覧した。 【課題】 ・インターンシップに臨む生徒の中には動機づけの弱い者もおり、目的意識を向上させる必要がある。 ・探究活動における実践を総合選抜型の大学入試に利用する生徒もいることから、3年間を見通した探究学習指導計画の再構築の時期であると思われれる。	・3年次の就職活動にインターンシップの経験を自己PRとして生かす生徒がいることからも、1年次から動機づけをしっかりと行い、高校生活3年間を見通した就業体験計画の構築を図る。 ・生徒が主体的にインターンシップに臨めるようにするため、就業体験をする事業所を生徒自身が積極的に調べることのできる工夫を行う。 ・大学進学に関しては、多様な入試選抜の型に対応できるように生徒への進路指導を行う。2年次には学部学科の希望を明確にし、具体的な進路計画を考えるよう促す。
4	◎安心・安全な学校づくり 〇防災マニュアルに基づいた防災教育の充実	・計画的な防災訓練/避難訓練の実施 ・交通安全と自転車マナーの指導の徹底 ・事故未然防止に向けた安全管理/確保の体制の充実 ・定期的な学校施設/設備の安全点検の実施 ・定期的な校内巡視の実施 ・報告/連絡/相談の推進と記録の徹底 ・情報配信の迅速化	【成果】 ・7月と3月に避難訓練/防災訓練を実施した。7月は地震を想定したシェイクアウト行動と帰宅グループの確認、3月は起震車での地震体験を実施した。 ・PTA役員保護者と保健生徒指導部との共催による「交通安全指導」を7月と11月に実施した。生徒の登校の様子を実際に見てもらうことで、生徒も保護者も交通安全に対する意識が高まったと思われる。 ・大規模な校舎外壁補修工事が1月より開始された。教育委員会担当者や工事業者との打ち合わせを繰り返し、教育活動への支障は最小限にとどめられている。 ・学校施設や設備に関しては、日常の安全点検や不具合の早期発見に努め、生徒と教職員が安心して教育活動を行える環境づくりができた。教職員とビルメンテナンス会社スタッフが連絡を密に取りながら、破損個所の早期発見、修理依頼が迅速にできている。 ・学校からの情報配信に関しては、「学校からの情報提供や連絡に不足を感じることはなかった」という保護者向けアンケートの問いに対して、回収された回答のうち76.6%が肯定的に回答している。 【課題】 ・自転車通行の苦情が学校へ多数寄せられた。交通ルールを守る指導の継続が課題である。 ・私物の管理をしっかりとすることや、公共物を大切に扱うことを生徒に再確認させる必要がある。 ・修繕予算の都合上、破損個所の修理復元に時間を要し、教育活動に支障が出ることがある。	・交通安全指導を継続していくことと、日頃から自転車通学者への交通マナーの遵守を促していく。PTA役員の保護者にも協力をしてもらい、生徒の登校の様子を見てもらう。 ・教員も率先して登下校指導ができるような学校体制づくりを考案する。 ・校内巡回を継続することと、ビルメンテナンス担当者からの報告や相談について、できるだけ早く対応することを心がける。 ・情報配信ソフトへの登録を保護者に促し、滞りの無い情報提供を目指していく。

学 校 関 係 者 の評 価	学校運営のまとめ
【6月と2月に開催された学校運営協議会より】 ・祭礼には部活動の生徒に参加協力をしてもらい、感謝している。（地域代表） ・体育祭/文化祭では生徒たちの溌溂とした様子を参観でき、見ている方も元気をもらうことができた。（地域代表） ・PTA役員と生徒会役員との交流会があると良いと思う。生徒から学校での困りごとを積極的に聴き、保護者の立場として施設面等での協力をしていきたい。（保護者代表） ・登校時や下校時における交通安全指導に積極的に協力したい。PTAの組織が活性化すると良いのだが。（保護者代表） ・特定の月に、相談を希望する保健室利用が増加している。カウンセリング等の相談活動を充実させて、特に、入学生の「高1ギャップ」を緩和できると良いと思う。入学生への丁寧な生活指導が必要だと感じる。（保護者代表） ・インターンシップ体験の生徒を受け入れる企業から「主体性に欠ける」という反省があげられているようだが、まずは、挨拶をしっかりするとか自分から質問するといったことから始めてみるのが良いと思う。（有識者）	【今年度の総括】 ・「幸探究」や地域行事への参加協力を通して地域理解を深め、生徒の豊かな心の育成に繋げることができた。 ・OJT研修を実施し、授業力の向上を目指して研修を行った。研修テーマを明確にすることにより、今後の授業に必要なポイントを明確にすることに繋がった。 ・「幸探究」や「課題研究」で取り組んだ成果を発表し、互いの研究を評価し合う機会を設けることができた。学校説明会等において学習内容として説明するなど、外部への発信を積極的に行った。 ・SNS等の使い方や交通安全に係る指導は、日頃から生徒へ声掛けをする必要があると再認識した。 【次年度に向けて】 ・地域とのつながりを大切にし、生徒の豊かな心の育成に努めていく。 ・「幸探究」の更なる充実と3年間を見据えた指導計画の構築に取り組む。 ・保健室の機能を充実させ、カウンセリングルームを活用して生徒が悩みごとを相談できる環境づくりを進めていく。 ・SNS等の適切な使い方や交通ルールを遵守することへの指導を継続する。 ・校舎外壁の大規模修繕に関しては、教育委員会及び設計事務所や施工業者と連絡を密にし、工事の教育活動への影響をできるだけ少なくなるように調整を依頼していきたい。 ・施設/設備の老朽化に伴う破損については、速やかに市教育委員会環境整備推進室に連絡し、修繕等の迅速な対応を依頼する。引き続き、教育環境の改善を図りたい。